

かざかえしいなりやまこふんしゅつどひん
風返稲荷山古墳出土品の魅力に迫る！

前編

出土品が国指定文化財に

馬具(馬の飾り)



市歴史博物館で所蔵する「風返稲荷山古墳出土品」が、新たに国指定文化財となりました。指定されたのは、古墳から出土した武器や馬具などを含む全53点です。市の国指定文化財は、椎名家住宅に続く2件目で、考古資料としては初の快挙です。茨城県内の考古資料では6件目となり、古墳の出土品としては、土浦市の武者塚古墳、行方市の三味塚古墳からの出土品に次ぐ3件目です。

この特集では、新たな国指定文化財「風返稲荷山古墳出土品」の魅力を2カ月にわたって紹介します。

装身具
(耳飾り・ガラス玉)



銅甕、須恵器(土器)



武器(飾り大刀・鉾・鎌など)



風返稲荷山古墳の発掘調査

旧出島村の安食地区・宍倉地区にまたがる場所に造られた風返稲荷山古墳が、昭和39年、日本大学考古学会によって発掘調査されました。調査は、8月の酷暑の中ほぼ1カ月にわたって実施され、数多くの出土品が見つかりました。

その後、出土品は大学で保管されていましたが、平成12年には旧霞ヶ浦町が中心となって整理作業を実施。発掘調査

報告書が刊行されました。そして出土品は正式に旧霞ヶ浦町へと保管替えされることとなったのです。

報告書の刊行によって風返稲荷山古墳とその出土品は有名になり、東日本を代表する古墳時代終末期の前方後円墳として認識されていきました。

発掘調査の様子▶



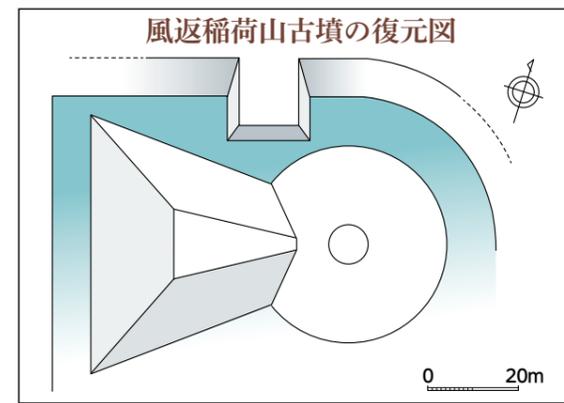
風返古墳群と風返稲荷山古墳



▲風返古墳群マップ

風返稲荷山古墳は、本市の安食地区・宍倉地区、石岡市の井関地区に分布する「風返古墳群」のうちの1基です。風返古墳群は、合計34基の古墳から構成され、風返大日山古墳や風返浅間山古墳など、市指定の貴重な古墳が複数含まれています。中でも風返稲荷山古墳は、全長78mと古墳群内で最大の規模を誇る前方後円墳です。

すべての古墳の調査が行われていないため、造られた時期については謎が多いですが、大型の古墳に関しては、6世紀から7世紀にかけて、風返大日山古墳・風返羽黒山古墳→スクボ塚古墳→風返稲荷山古墳→風返浅間山古墳の順に造られたと考えられています。



後編(2月号)では、出土品が見つかった様子や古墳に埋葬された豪族の実像に迫ります！

歴史博物館 ☎ 029-896-0017